

# かがやき

第2号  
発行 平成15年12月1日  
茨城県立図書館ボランティア  
協議会広報委員会  
文責 黒沢 英宣

## 目次

- 読書フェスティバル 2003 盛大に  
～ ボランティアも盛り上げに一役～
- 図書館ボランティアの現場探訪記  
～ それぞれの活動の様子取材しました～  
代読サービス・児童サービス・図書修理
- 名づけへのご応募ありがとう!!
- 「声」のボックス設置しました。ご投稿を。

## 読書フェスティバル 2003 盛大に

### － ボランティアも盛り上げに一役 －

平成15年の読書フェスティバルが11月2日(日)、県立図書館と三の丸広場において盛大に開催されました。

本年のフェスティバルは、県立図書館創立100周年記念行事として、オープニングセレモニー、記念講演会のほか、私達ボランティア協議会の自主企画による野外オープンカフェの運営も加わり、今までにない活気に溢れたフェスティバルになりました。

私達ボランティアは、前日準備から活動を始め、前日は15名、当日は30名の皆さんが積極的に協力されました。

好天にも恵まれ三の丸広場では、水戸商工会議所加盟の企業・商店から14店をはじめ、福祉施設からの出店、県内の特産品販売店、古本マーケット等いろいろなお店が並び、たくさんのお客様でにぎわいました。

また、イベントでは、チビッコ力士80名が参加して「子ども相撲大会」が開かれ、子ども達や親達の明るい声援が大テントに響いていました。

仮設ステージでは有名な大洗高校マーチングバンドの演奏や合唱など様々な催し物が繰り広げられ、フェスティバルを一層盛り上げました。

広場担当のボランティア10名の方々は、



それぞれの持ち場でお客様と直接ふれあいながら明るく活動されていました。中でも、着ぐるみ担当の3名のボランティアの方々は、気温24℃という野外で長時間子ども達とのふれあいに努められ、がんばっていたのが印象的でした。

視聴覚ホールでは、日野原重明先生を迎



えた記念講演会が開かれ、立見のお客様の誘導案内、場内整理にボランティアの皆さんが汗をかいておられました。3階の会議室もホールに入りきれないお客様のための第2会場となり、ここでもボランティアの皆さんが対応に追われていました。

受付での来賓対応でもボランティアの方々は、テキパキと応対して職員に協力しスムーズな受付の流れをつくっていました。

**今** 回初めて企画したボランティアによる自主運営の野外オープンカフェは、図書館側とボランティアとの事前打合せにより、コー

ヒーとオレンジジュースを各々1杯50円で販売すること、コーヒーメーカーの借用、原材料、カップ等の購入は図書館が行うこと等が決まり当日を迎えました。

当日は、図書館入口近くにテントを構え、担当の8名のボランティアの皆さんは、午前9時過ぎから次々に訪れるお客様の対応に追われ、

当初準備されたコーヒーは午前10時40分頃には無くなり、売上金の中からコーヒーやカップ等を追加購入、ジュースも正午過ぎには追加購入せざるを得ないほど盛況でした。ボランティアの皆さんは休むいとまもないほど動き回り、結局コーヒーもジュースも無くなった午後1時30分過ぎ閉店しました。

最終的に売上額は21,900円あまり、カップの数にして439杯もの売上げがあり、担当されたボランティア

の皆さんは、予想外の売上げにびっくりしていました。

今回のフェスティバルにおけるボランティアの皆さんの活動は、訪れたお客様に快い印象を持っていただいたと思います。

願わくば、もっと数多くのボランティアの皆さんが参加して多方面に活動すれば、より一層充実した催しになるのではないのでしょうか。

ともかくも参加されたボランティアの皆さん、ご苦労様でした。

(黒沢 英宣)

## 代読サービス

マンツーマンで万全

**東** 洋医学の分厚い書物を挟んで、目の不自由な方とボランティアが向い合います。両者ともかなりの実績を積み上げている模様で、和気あいあい、勉強への意欲満々の雰囲気です。

対面朗読



す。対面朗読のボランティアはかなり経験のある実力者がおられるようですが、これを利用しようとする方が現在2名です。これでは宝の持ち腐れではないのでしょうか。図書館に自分ひとりで来られない高齢者の方々にも大いに利用していただきたいものです。

読書と勉強

朗読テープ

**自**腹を切って NHK の研修会に参加した人達の反省会がありました。講師の方は「10年以上の経験でも大先生の前では、注意されることばかり」と語りつつ、研修会のテキストの要点を指摘していました。日々勉強と向上意欲一杯の皆さんと見受けられました。各々が雑音防止のためにエアコンを止め、窓を閉めて深夜に文学書などを録音したテープを持ちより、これを参加者一同で試聴して批評します。講師の厳しい批評を受け止めつつ、次の勉強

を模索するのです。その真摯な態度には頭がさがります。活字離れの昨今、このように書物と朗読により熱心に取り組んでいる方々は数においては、きわめて少数ではないでしょうか。朗読グループは全員勉強、研修中で、講師が納得されるようなテープづくりにはまだ至っていないとのことで、必要なテープ貸し出しは将来のこのようです。皆さんのさらなるご活躍を期待したいと思います。

(上条 哲)



## 児童サービス

残念な開店休業

**ウ**ィークデイの午後、グリーンエプロンのボランティアが待機する児童読み聞かせ室。児童や幼児の姿が見られません。しばらくすると、母親とともに幼児が1人やってきました。幼児1人ひとりを囲み4人の大人が読み聞かせを始めました。このような状況が今年になってから顕著になったそうです。どうしてでしょうか。ボランティアの方々のご意見はほぼ次のような



ものでした。「少子化の進行か、水戸市立図書館はじめ、あちこちで児童サービスを展開しているからか、保育園、幼稚園の保育時間と並行しているためでしょうか。」「来館児童幼児ゼロ対策としてどのような方法があるのでしょうか。夏休み中には、高学年対象の時間をもてましたが、休み明けとなると開店休業となってしまうのです。」など。せっかくのボランティアの皆さん

の熱意を燃焼させることができないのは、全くもったいないことです。

土曜の午後は張り切り

**午**後1時、声を高めて呼び込みが行われました。早速2組の親子がやってきました。まず4人を対象に紙芝居が始まりました。20分後子供17人、親6人、合計23人の観客。自然に心が踊ります。張り切って紙芝居にも絵本読み聞かせにもアドリブを入れたり、子供達との問答を入れたりして、次第に楽しい雰囲気



が盛りあがっていきました。気が付いたら時計は2時5分、「残念ながらおしまいとなりました。またお揃いでお出掛けください」とごあいさつ。その場にいる全員の顔が輝いて見えました。加えてお父さんから「おもしろかったし、引き付けられましたよ、ありがとうございました」と声をかけられてボランティアの方々にはさらなる意欲を高めることができたようです。このような光景は、日曜日にも見られるそうです。

児童サービスの研修

**各**グループでそれぞれ研修し、準備を重ねて努力をなさっておられます。グループ相互の理解にも努力されているとのことです

が各グループとも技術面や態度などについて熱心に勉強されておられます。子供達のリピーターが増えて、年齢の向上とともに何度も訪れてほしいと思いました。子供の心を捉えた心の

交流の積み重ねがより一層望まれることではないでしょうか。

(上条 哲)

## 図書修理 - 一冊に思いを込めて -

**ボ**ランティア室の扉を開けると窓に向かって黙々と図書修理をしている人の後姿が目に入ります。

広報第2号発行について話し合う中から今回、図書修理の現場を取材させていただくことになりました。

9月中旬の残暑厳しい午後、ボランティア室には修理歴10数年の川上さん、約8年の帯刀さん、他に4人の方がいました。帯刀さんの指導のもと4月から仲間に入った木村さん、辺見さん、本田さんが子供の本の表紙にかぶせる透明カバーの説明を受けながら作業に励んでいました。この透明シートは『アメニティーBコート』といい、本に合わせてカットします。切捨て分は小さなものでも別口の修理用にとっておく節約ぶりです。ハサミ・定規・糊の3点は必需品、糊づけに使う刷毛は各自の工夫ですが、毛染め用のものが使いやすいとのことでした。

**子**供の本はカバーと表紙が同じ絵柄になっているものが多く、破れているカバーは外してしまうこともあります。しかし、表紙の破損は何かして修復するよう努力します。子供



にとって表紙から受けるイメージは、読みたいという意欲に大きく影響するからです。1冊ずついいいに仕上げます。

紙質は厚目の方が容易で、脱落したページはまず糊づけします。糊はヤマト糊・ピニダイ(合成糊)に水を加えて調整します。乾燥具合、本の紙質等により糊のつき方が微妙に変化するからです。修理にセロテープは使いません。糊が基本です。本が返却される時、破れた箇所をセロテープで処理したものが時々混じっていますが、修理の際にははがすため破れたり、後が残ったりして余分な手間がかかります。どうかそのまま返してくださいとのことでした。

本は1冊1冊それぞれ違う顔を持っています。

「見栄えのする図鑑、大きな写真集など最近の製本には隠れた部分に手抜きが目立つ」と川上さんは話していました。本来、糸で綴じる箇所を糊づけだけで済ませているので簡単に破損するのです。96年以降の製本に目立つそうです。背景に経済優先という世相を垣間見たように感じました。有名な建築家の写真集は一見豪華本の装丁になっていますが、背からページがはがれるのは糊づけしかなされてい

ないゆえんでしょう。これらは一度バラしてドリルで穴をあけ、糸綴じをする手順を経て再製本されます。この時ページの順を確認することも大切です。

糊づけ作業をしていた是枝さんは1月から修理に関わっています。図書修理について、まず根気、細かい手仕事、手が汚れる等をあげ、好きであることに尽きる、と話していました。

図書館の職員が修理に関われない現状ではボランティアの存在は不可欠であることを痛感しました。

はた目には大変に見える作業



をベテランの川上さん達も新人の本田さん達も面白いと語り、楽しげな姿が印象に残りました。

傷つき疲れて戻ってきた1冊の本に再出発

のチャンスを与える素晴らしい仕事をなさっていると思いました。

(寺門 宏、金澤 鈴枝、鶴丸 優美子)

---

## 名づけのご応募ありがとう

名づけ親は住谷瞳さん。児童サービスの明るく元気な高校2年生です。

「名づけ親になってうれしいというより、びっくり。名前はひらめきでつけました。初めて見学した時にボランティアの方の顔が輝いていて、かっこいいなあと思ったからです。ボランティアを始めた頃は緊張して声が出なかったけれど今はとっても楽しい。これからも読み聞かせを続けてもっとうまくなりたいです。」

---

## お願い

ボランティア室に「ボランティアの声」の箱を設置します。

次号から、日頃のご活動についてのご意見感想や要望を広報紙に掲載したいと思います。どうかご協力をお願いします。

同封の用紙へ書いて箱にお入れください。

匿名、記名いずれでもけっこうです。

## 編集後記

取材にご協力くださったボランティア仲間の皆さん、ありがとうございました。理想と現実のギャップに悩んだりしながらも、皆さん誰もが生き生きと仕事の内容や現状を語ってくれました。私も楽しく誇りを持って、より良い広報を目指してボランティアを続けたいと思います。

(広報 鶴丸 優美子)